

「奥会津地域における幸福度の高い地域福祉」

福島大学/地域福祉（鈴木典夫）ゼミ×柳津町・三島町・金山町・昭和村

課題

超高齢社会地域である対象地域において、保健・医療・福祉の充実が課題としてあげられる。その中でもいかに健康づくりを進めるかが焦点の一つとなる。身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康という領域から提案することにより、日常の地域生活での「幸福度」の向上を目指した。

調査研究手法

健康づくりに関して、政策的に何をすべきかではなく、日常生活や地域で何がしたらよいのだろうかという思考で、学生からのアイデアカルテ作成を行った。また、対象の4町村の地域行事や活動に参加し、自由参与観察調査により、住民の方々から日常の声をヒアリングを行った。

結果・分析

これまでの健康づくりには、行政や主催団体主導がその役割を担うことも多いが、なかなか長続きしない。そのためにもコミュニティや住民が参与できる機会が必要である。また、健康づくりを「見える化」して意識づけやチェックの日常化を促し、不調の早期発見につなげていくことの工夫が必要。健康づくりは食が重要であるが、行政からの啓発・個人の努力だけでは不十分で、地域ぐるみでの取り組みが楽しみにもつながっている。社会的なつながりを維持するには、開発ベースの未来志向ではあるが仮想空間で多くの人との交流を生み出すことの期待もある。調査等では、若者との交流が楽しみにつながり、なによりの健康づくりになるとの期待も大きい。

提言施策

具体的には以下の提言を行った。

- ・コミュニティ単位でつくるフットパス
- ・自分でできる健康チェック型スマートウォッチの導入
- ・食事内容を見直すレシピの共有、食事会
- ・バーチャル空間での新しい生活の楽しみづくり（メタバース居場所など）

いずれの活動に、若者が何らかでかかわることも提案した。